

「伊豆大島，三宅島の次回の噴火を考える」

日時：平成 29 年 12 月 25 日（月）13：00～12 月 26 日（火）12：00

場所：東京大学地震研究所 第 1 会議室（2 号館 5 階）

開催趣旨

前回の噴火から、伊豆大島では 30 年、三宅島では 20 年近く経過し、共にこれまでの平均的な噴火間隔に迫っています。これら伊豆諸島の火山は、テクトニックな環境から広域応力場が卓越する火山であり、そのため急速なマグマの移動現象であるダイク貫入が日本の他の火山に比べ、頻発すると思われれます。ダイク貫入現象は、山麓でも噴火して火山災害を引き起こす可能性があると同時に、マグマの動きを具体的に知ることができ、また、カルデラ陥没との関係が示唆されるなど火山学的に大変興味深い現象です。この研究集会では、今から両火山の次期の噴火についての科学的な議論を始め、火山噴火予測につながる知見を集めると同時に、今後どのような研究を推進すべきかを議論しようという趣旨で開催します。

プログラム

12 月 25 日（月）

13:00 開催の挨拶，開催趣旨説明

13:10 噴火史からみた伊豆大島噴火の類型・成因と 1986 年噴火の意味

小山真人・早川由紀夫

13:25 伊豆大島火山の噴火シナリオ -これまで何が起こったか

川邊禎久

13:40 三宅島における最近一万年間の火山活動の概要

新堀賢志

13:55 三宅島火山の最近 3000 年間の噴火史—新たな火山層序を基に—

及川輝樹

14:10 1986 年伊豆大島噴火の経緯とその地形的特徴

千葉達朗，遠藤邦彦

14:25 伊豆大島及び三宅島の過去の火山性微動の挙動

山里 平

14:40 1986 年伊豆大島噴火に伴う火山性微動と低周波地震活動の推移

黒川愛香・栗田敬

14:55 伊豆大島 1986, 87 年噴火活動以降に観測された火山性微動の発生機構

及川純・井田喜明・山岡耕春

15:10 伊豆大島 1987 年噴火の前駆過程：山頂火道内マグマのドレインバック

渡辺秀文

(休憩)

- 15:40 三宅島 2000 年噴火の概要
中田節也
- 15:55 2000 年三宅島噴火活動初期のマグマとマグマ溜まりの活動
上田英樹
- 16:10 地震データから見た 2000 年三宅島噴火 (レビュー)
大湊隆雄
- 16:30 三宅島 2000 年噴火における大量ガス放出期に観測された地殻変動から推定されるガス放出機構
及川純・中尾茂・渡辺秀文・他
- 16:45 稠密な GNSS 繰り返し観測から分かった三宅島火山の圧力源
松島健・福井海世・及川純・他
- 17:00 伊豆大島, 三宅島の噴火における重力観測の意義と今後の課題について
今西祐一・大久保修平
- 17:15 伊豆大島火山の現在の地震・地殻変動と今後の展望
森田裕一
- 17:30 最近の三宅島の地震と微動活動
萩原弘子・渡辺秀文

12 月 26 日 (火)

- 09:00 1986 年伊豆大島噴火の際の地殻変動データを包括的に説明するマグマモデル
上垣内修
- 09:15 伊豆大島の次の噴火に向けて: 防災科研からの提案
藤田英輔
- 09:30 伊豆大島次期噴火に向けた取り組み~特に山頂噴火について~
鬼澤真也
- 09:45 伊豆大島火山ガス・温泉水の地球化学的特徴の時空間変化
角野浩史・川名華織・山根康平・他
- 10:00 電磁気観測網による伊豆大島火山活動モニタリング
小山崇夫・上嶋誠
- 10:15 山頂噴火から山腹噴火への分岐—ストロンボリ火山の事例—
西村太志
- 10:30 火道内現象の理解に向けた火口周辺稠密地震観測の一提案
山本 希

(休憩)

- 11:00 総合討論 (12:00 閉会予定)

以上